

【 無煙炭化器の使用手法 】

周囲の住宅等の生活環境に十分に配慮いただき、取扱説明書をよくご確認の上、使用してください。なお、風が強い際には、ご使用をお控えください。

（1）消防署への届出

無煙炭化器ですが、炭化器の温度が上がるまでは煙が生じます。あらかじめ「**火災と紛らわしい煙又は火災を発生おそれのある行為の届出書**」を消防署へ届け出ること。また、延焼を防止するため、延焼防止用の水を準備する。

（2）剪定枝等の用意

なるべく乾燥させた**剪定枝**や伐採竹（以下「剪定枝等」という。）を用意する。水分が残っていると燃えにくく**燃焼時間も長くなる**とともに、**煙(水蒸気)の発生原因**となり、生成される炭の量も減少します。（太すぎると炭化に時間が掛かるので、太さ5cm以下が望ましい。）

（3）炭化器の設置

火災の心配のない十分に広い場所、平らな土の上に設置し、草の上には設置しない。また**底部の隙間から空気が入り込まないように、地面に押し付けるようにねじりながら設置**する。

（4）熾(おき)火

焚き付け用の段ボールと細い剪定枝等を用意する。ガスバーナー等で着火し熾(おき)火を作り、炭化器内の温度を上げる。

（5）剪定枝等の初期投入

熾火ができあがってから剪定枝等を少しずつ、空気が通りやすいように配置しながら投入する。**一度に多くの剪定枝等を投入すると火力が下がり、煙が生じる。**

（6）剪定枝等の連続投入

火力が上がったら、**炭化した剪定枝等が器の7～8分目程度に達するまで連続的に投入**する。底部の方は酸欠、蒸し焼き状態になり炭化が進む。この状態になると煙はほとんど生じない。**この際、火炎が高くなるので、十分に注意すること。**

（7）剪定枝等の投入後

炭化が進むと火力が下がり、炎が小さくなる。炎が出ている部分は未炭化である。適度にかき混ぜ、炎が消えたら炭化完了。

（8）消火・完成

【水をかけて消火する場合】

煙の出ているうちは火種が残っているので、完全に消えるまで十分に散水する。完全消化後5分ほどおいて、容器が冷たくなっていることを確認する。炭を割って炭化状態（歩留まり）を確認する。

【火消し蓋を被せて消火する場合】

炭化器に火消し蓋を被せて消火する。**蓋のまわりに土を被せて空気が入らないようにする。**一昼夜置くと炭が完成する。

（9）保管

炭は燃えやすいため、保管する場合は、火の元から離すとともに、燃えやすい袋に入れたり、燃えやすい物の近くに置いたりしないでください。